平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業 (発達障害理解推進拠点事業)

成果報告書 (概要版)

実施機関名(帝塚山学院大学大学院)

1. テーマ

発達障害児への将来を見据えた支援、二次障害を防ぐ支援のために、基礎的知識・技術、専門性の向上を目指したモデル校を中心とした実践研究および成果の発信

2. 問題意識・提案背景

主に発達障害の診断に使われるアメリカの精神医学会『診断と統計の手引き』(DSM)の改定に伴い、発達障害に関する診断基準も大幅に変更された。 それに伴い、教育現場での大きな混乱が容易に想像できる。

一方,保護者が発達障害,あるいは虐待まで至らぬとも保護者自身が愛着 形成に問題があるため,発達障害児の不適応状態が増悪している場合や,定 型発達児が発達障害児と同様の特性を持つ場合が少なくない。

この現状では診断の有無によらず、困難さを抱える児童に養育環境を含め 適切な環境を提供しなければ、不登校一引き込もりを始め、心因性の身体症 状や不安・強迫症状の悪化、行為障害など、二次的障害が認められ、将来に わたり不適応状況に陥ることが懸念される。

これらの視点から、現職教員は、従来の発達障害という概念に留まることなく、発達に特性のある児童・生徒が二次障害を顕在化させる前に支援をするために、教職員の研修の受講等により基礎的な知識・技術の向上を図り、専門性を向上させることが喫緊の課題と考え、本事業を提案する。

3. 拠点校について

〇 拠点校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
堺市	はるみ小学校(はるみしょうがっこう)

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名(ふりがなを付すこと)
社会福祉法人 浜寺会	はるみだい保育園(はるみだいほいくえん)
学校法人 泉新学園	晴美台幼稚園(はるみだいようちえん)
堺市	晴美台中学校(はるみだいちゅうがっこう)
大阪府	堺東高等学校(さかいひがしこうとうがっこう)

4. 拠点校における取組概要

年間を通じて, 拠点校において以下のことを実施した。

○事例研究の実施

発達障害児一人ひとりの認知的・情緒的特性と現状の把握,対応の改善を図るべく,専門家の助言のもと事例研究を計2回行った。

○発達障害に関する研修

- 1)「発達障害と心の発達」: 発達障害をより深く理解するために基本的な心の発達の理解が重要と考え実施した。
- 2) 「発達障害の理解―二次障害を防ぐ重要性」:二次障害を防ぎ、将来の適応を 見据えた支援の重要性を考え実施した
- 3)「発達検査の有効な活用方法―ウェックスラー検査を中心に―」: 認知特性の詳細な査定の重要性と、医療との連携を効果的に行うために実施した。
- ○個別ケースコンサルテーション

発達障害児個別事例について、保護者了解のもとウェックスラー検査を施行し、 より有効な支援を検討すべく教員に指導助言を行った。

5. 主な成果

- ○事例検討会では個々の児童について,担任を中心に,関わりがある教員などの報告を基に現状の課題について討論を重ねた。さらに,専門家からの助言を加え,教員全員が個々の児童の実態を共有し,共通の視点で対応の改善に取り組むことができた。
- ○発達障害に関する研修会では、医療・心理など教育領域以外の専門家の活用により、発達障害を多角的に理解する重要性を認識したことを示す感想が多く寄せられた。

平成26年7月22日 発達障害と心の発達

参加 31 名

平成26年8月25日 発達検査の有効な活用方法

―ウェックスラー検査を中心に―

参加 50 名

平成 26 年 12 月 10 日 発達障害と心の発達

参加 31 名

平成 27 年 2 月 27 日

発達障害の理解―二次障害を防ぐ重要性 参加 38 名

平成27年3月4日 発達障害の理解―二次障害を防ぐ重要性 参加29名

平成27年3月5日 発達障害の理解と対応―二次障害を防ぐために―

参加 21 名

○個別ケースコンサルテーションでは教員からの報告とウェックスラー検査 施行により、児童の理解を深め、児童の特性に応じた対応を推進しただけで なく、保護者の子ども理解にも繋げることができた。

6. 今後の課題と対応

1) ユニバーサルデザイン化された授業を有効にするためにも、児童の情緒 的安定が必須であり、そのためには保護者や地域の方々の発達障害に対す る理解が重要となる。来年度は教職員への啓発のみならず、保護者や地域 の方々に対する啓発セミナーの充実を図る。

- 2) 今年度は医療・心理領域の専門家による研修が中心となったが、教員の 発達障害児に対する多角的理解を推進するために、来年度は福祉・司法領 域の専門家による研修セミナーの充実を図る。
- 3) 本事業をモデル事業として堺市内の別の学校への支援活動として拡げて いく基盤を作る。

7. 問い合わせ先

組織名:

(1) 担当部署 帝塚山学院大学大学院事務課

(2) 所在地 〒590-0113

大阪府堺市南区晴美台4-2-2

(3) 電話番号 072-296-1331

(4) FAX 番号 072-292-2135

(5) メールアドレス a-okuda@tezukayama.ac.jp